

まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第266号



2024. FEB
令和6年2月1日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



寒さでつくる伝統の味 へそ大根（筆甫地区）

（表紙のことは …… 18ページ）

12月議会

- 町民の期待に応える14議員決まる …… 2 ページ
- 物価高騰へ更なる支援 …… 4 ページ
- 一般質問** 8名の議員が町政を問う …… 7 ページ
- 議会の要望に町長が回答しました …… 16 ページ



まあるい森の里からこんにちわ

町民の期待に応える 14議員決まる



9番
きくち しゅういち
菊池 修一 (67歳) 5回
■議会運営委員会 委員
■総務民生常任委員会 委員



8番
わたなべ まさみ
渡辺 政巳 (70歳) 4回
■議会運営委員会 委員
■産建教育常任委員会 委員長



7番
おおつき まさよし
大槻 正儀 (69歳) 3回
■議会運営委員会 副委員長
■産建教育常任委員会 委員
■仙南地域広域行政事務組合議会議員



12番
いたばし いさむ
板橋 勇 (80歳) 11回
■総務民生常任委員会 副委員長



11番
うみかわ まさのり
海川 正則 (77歳) 8回
■議会運営委員会 委員長
■総務民生常任委員会 委員



10番
いしい ひさし
石井 央 (74歳) 8回
■産建教育常任委員会 委員



13番
ふなやま しゅんいち
船山 俊一 (61歳) 4回
■産建教育常任委員会 委員



14番
さとう よしいち
佐藤 吉市 (73歳) 7回

副議長

議長

議員任期

令和5年12月1日から
令和9年11月30日まで



3番
おおつき たかお
大槻 孝雄 (72歳) 1回
■産建教育常任委員会 委員
■議会広報常任委員会 委員



2番
なかつ がわ
中津川 かつお (47歳) 1回
■産建教育常任委員会 委員
■議会広報常任委員会 委員



1番
やまき まゆ
八巻 真由 (31歳) 1回
■総務民生常任委員会 委員
■議会広報常任委員会 委員



6番
すずき みちこ
鈴木 美智子 (58歳) 3回
■議会運営委員会 委員
■総務民生常任委員会 委員
■議会広報常任委員会 委員長
■県後期高齢者医療広域連合議会議員



5番
やまもと あきのり
山本 明徳 (67歳) 2回
■産建教育常任委員会 副委員長
■議会広報常任委員会 副委員長



4番
かなもり ひろゆき
金森 裕之 (46歳) 2回
■議会運営委員会 委員
■総務民生常任委員会 委員長
■議会広報常任委員会 委員

委員会等の役割

■議会運営委員会

議会運営の要で、議長の諮問機関としての役割を担っており、総務民生・産建教育・議会広報の3常任委員長と議長が指名した議員で構成されています。

■総務民生常任委員会

総務課・企画財政課・町民税務課・保健福祉課・子育て定住推進課等の事務調査を行います。

■産建教育常任委員会

農林課・商工観光課・建設課・教育委員会等の事務調査を行います。

■議会広報常任委員会

議会広報「まるもり議会だより」の編集・発行を行います。

※各議員のより詳細な紹介は、ホームページで公開しています。



凡例

顔写真

議席番号
氏名 (当選時年齢) 当選回数
■所属の常任委員会等

■県後期高齢者医療広域連合議会議員
宮城県内の市町村議会議員からそれぞれ選出された議員で構成され、広域連合の条例や予算などを審議します。

■仙南地域広域行政事務組合議会議員
仙南2市7町の議会議長と、議会から選出された議員で構成され、事務組合の条例や予算などを審議します。

物価高騰へ更なる支援

12月議会のあらまし

12月議会定例会は、12月1日から20日まで開催しました。

議員改選後、初議会のため、議長・副議長や仙南地域広域行政事務組合

議会議員、県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を行いました。

このほか、常任委員会等の委員の選任や、町選挙管理委員・補充員を指名推選で選出しました。

また、審議の結果、町長提案の議案等をすべて原案どおり可決しました。

一般質問は8人の議員が行い、自らの考えを交え、町長や教育長と活発な議論を行いました。

議会最終日には、議員発議で「議会70年史編さん特別委員会」を設置しました。

(詳細は6ページ)

主な議決内容

- ◆条例の一部改正 4件 (国民健康保険税条例の一部改正 ほか)
- ◆指定管理者の指定 3件 (蔵の郷土館斎理屋敷、不動尊公園キャンプ場、あぶくま荘等)
- ◆監査委員選任の同意
- ◆一般会計ほか4会計の補正予算

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。



主な補正予算

物価高騰への追加支援
1億631万円

物価高騰による影響への新たな支援として、次の事業の予算を承認しました。

■阿武隈急行線利用学生の通学定期購入費用の補助
138万円

■令和4年度の水道光熱費等が30万円以上の中小企業等へ5万円から10万円の支援金給付
1500万円

■住民税非課税世帯へ7万円給付(すでに給付している3万円給付対象者への追加給付)
8993万円

■台風災害再調査結果による復旧対応に
3440万円

災害再調査で把握した農地・農業用施設の未復旧箇所について、個人または団体が業者等へ委託した費用の一部を補助する予算1440万円を承認しました。

ふるさと納税歳入を
3000万円追加

個人版ふるさと納税の寄附見込み額を、1億3000万円から1億6000万円に増額することを承認しました。すでに約1億2000万円の寄附があり、前年度の寄附額を上回る見込みです。

指定管理者の指定

斎理屋敷・不動尊公園
キャンプ場・あぶくま荘
等の指定管理者が決まる

令和5年度末で指定期間が終了する施設の指定管理者を指定しました。

斎理屋敷は新規事業者が行い、不動尊公園キャンプ場とあぶくま荘等は、現在と同じ事業者が引き続き管理を行います。

●丸森町蔵の郷土館斎理屋敷株式会社 Washioi Lab (新規)
(令和6年4月1日～3年間)



ハロウィンナイトで賑わう館内 (斎理屋敷・新館)

●不動尊公園キャンプ場
伊具緑化・MARUMORI
I S A U N A J V
(令和6年4月1日～5年間)

●あぶくま荘、丸森町屋外
ホール、丸森町自然ゆう
ゆう館天水舎
仙台ヘリテージツーリズム
株式会社

(令和6年4月1日～5年間)

※指定管理者制度とは
施設の管理運営を民間事業者に包括的に委任する制度。指定管理者は協定等の範囲内で、独自の工夫をして管理運営を行うことができる。

なお、産業伝承館は指定管理者への応募がなく、町



令和5年5月に開催されたまるもりHARENOBAまるしえ (不動尊公園キャンプ場)

が直接管理します。今後、新たな利活用の検討を進めます。

あぶくま荘等の指定管理者の指定では賛否が分かれ議論に

審議の経過

あぶくま荘等の指定管理者の指定では、あぶくま荘の経営方針や、現在、平常利用されていない天水舎の施設管理の問題、今後の活用などについて、多くの議員が質疑を行いました。その後、討論を行い、起立採決で賛成12・反対1となり、本案を可決しました。

反対討論

渡辺政巳議員

住民が求める活用を
多くの住民から天水舎でのレストラン再開の要望があるが、今回の提案はその見通しがない。あぶくま荘周辺は町の観光のメインでもあり、店が開いていなかったのは損失である。また、あぶくま荘とは分離しての指定が望ましいと考えるが、その協議もされず、反対である。

賛成討論

菊池修一議員

期待を含め見守る

長い歴史の中で経営というものは大変厳しい状況にあり、その都度知恵を絞り、議会としても賛同しながら指定管理を行ってきた。議会は様々な情報を共有しながら進めてきた経緯も判断する材料として、期待を含めながら監視を続けていきたいと考え、賛成する。

条例制定

産前産後は
国保税減額

子育て世代の経済的負担軽減の観点から、出産をする国民健康保険被保険者を対象に、産前1か月(多胎の場合は3か月)・産後12か月の国民健康保険税を減額するよう条例を改正しました。

国の制度では産前1か月・産後3か月の計4か月のみの減額ですが、丸森町は独自支援として産後12か月まで減額することで、更なる負担軽減を図ります。



愛おしそうに我が子を見つめるお母さん

一般質問 町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずめるものです。今回は8人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
8	海川正則	●防災に強いまちづくりは 町長 排水能力を2.5倍に強化
9	鈴木美智子	●民意反映の取り組みは 町長 町民との対話に努める
10	八巻真由	●子育て支援策の拡充を 町長 環境づくりに努める
11	石井央	●災害再調査後の対応は 町長 工事費用を一部補助する
12	山本明德	●除染仮置場をどうする 町長 一か所への集約を検討
13	渡辺政巳	●公職選挙法の認識は 町長 他の法律を含めて遵守
14	大槻正儀	●投票率向上策の検討を 町長 選挙に関心もたせる
13	板橋勇	●新たな国際交流の推進を 町長 姉妹都市交流協会を検討

選挙管理委員会委員、 補充員の選挙

指名推選の方法で行い、議長が指名した次の方々が当選となりました。
任期は令和5年12月24日から9年12月23日までです。

選挙管理委員

○委員長(職務代理者)

◎伊藤 敏彦 さん

(金山地区)

○天野 利明 さん

(小斎地区)

佐久間正美 さん

(筆甫地区)

六戸 信夫 さん

(大張地区)

委員補充員

(○数字は補充順位)

①菊地利江子 さん

(館矢間地区)

②高山 直大 さん

(大内地区)

③八島 考史 さん

(耕野地区)

④霜山奈津子 さん

(丸森地区)

議会選出監査委員の 選任に同意

監査委員2人のうち1人は、町長が議会議員から選任し、議会の同意を得て決定します。町長からは、菊池修一議員を監査委員に選任する提案がありました。

議案の採決は、議長及び本人を除く12人による無記名投票で行い、賛成12票で、町長提案のとおり同意することに決定しました。

議会70年史編さん 特別委員会を設置

令和6年12月1日で丸森町議会70周年を迎えるにあたり、議会史を編さんするため「丸森町議会70年史編さん特別委員会」を議員発議で設置しました。
今後、委員会で編集方針等を検討し、編さんを進めていきます。
任期は令和5年12月20日から議会史の編さんが終了するまでです。

丸森町議会70年史編さん 特別委員会委員

委員長 大槻 正儀
副委員長 鈴木美智子
委員 金森 裕之
山本 明德
船山 俊一
佐藤 吉市



より良い議会史を編さんできるよう頑張ります



次の議会は

3月4日(月) 午前10時
開会予定

●日程が変更になる場合があります。
後日、町議会のホームページで、改めてお知らせいたします。



問い合わせ先 議会事務局 ☎0224-72-3038

スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで
ライブ中継しています

●一般質問は過去の録画映像を常に視聴できます。ぜひ議会だよりと一緒にご覧ください。



丸森町議会中継

検索



鈴木美智子 議員



QRコード
一般質問動画

民意反映の取り組みは

町長 町民との対話に努める

民意は、まちづくりに欠かすことができない重要なもののひとつである。民意を町政に反映させる取り組みについて町長に問う。

問①本町で毎年開催しているまちづくり懇談会は、より多くの幅広い年齢層の町民が参加するのが望ましいと思うが、どんな状況か。また、意見や要望が事業等に活かされたことはあるか。

答①令和5年度は163名、4年度が168名で令和元年東日本台風後の337名を除けば横ばいである。参加者は男性と高い年代

の方が多いが、テーマにより若い年代の方が多い年もあった。様々な意見や要望があるが、最近では台風で被災した農地が復旧箇所から多々漏れているとの意見があり、再調査を開始した。早期の復旧と営農再開に努める。

問②令和4年3月の私の一般質問で、子育て支援日本一につながる子育て中の町民とのまちづくり懇談会開催の情報周知や、参加しやすい手法を提言したが取り組みはなされているのか。
答②今後、伝わりやすい情報発信の方法を検討する。また、意見や要望を収集する方法の一つとして、ワークショップ等の導入について引き続き研究する。

問③子育てや教育について考えや関心はあるが、家や仕事、子育てで懇談会に行けないと聞く。集まってもらうのではな



町民と対話の場 まちづくり懇談会（金山地区）

防災に強いまちづくりは

町長 排水能力を2.5倍に強化

問①河川防災ステーションは、災害時と平常時の活用はどのように検討され、どう整備を進めるのか。また、町内周遊の拠点として様々な機能が盛り込まれるが、施設の管理運営はどう考えているのか。
答①令和3年度から学識経験者や国県、商工会、住民自治組織等の代表者で組織する検討委員会にて利活用、配置等を検討している。管理運営は指定管理者を選定し、賑わいづくり拠点はテナントとして民間事業者が入る予定である。今後、7年度に水防センターを建設し、8年度の運



完成が待たれる新ポンプ場（丸森神明地区）

用開始を目指す。
問②中心市街地の内水氾濫対策として進める雨水ポンプ場、直接放流管の整備などは、東日本台風と同規模の降雨にどの程度、効果があるものか。

答②被災前の排水能力は雨水ポンプ場など合わせ、毎秒3・94立方メートルだったが、新ポンプ場と直接放流管の整備で9・94立方メートル、被災前と比べ2・5倍に増強される。東日本台風と同規模の降雨が発生

した場合も、住宅浸水被害は発生しない見込みである。新雨水ポンプ場は令和6年12月、直接放流管は7年9月に完成予定である。
問③小斎地区を中心とした隈東地区は、内水による住居や農地等への浸水被害が頻発し、地元などから町に排水施設の整備要望が出されている。例えば、小斎地区の堂畑排水樋管及び前並排水樋管の排水施設整備により、ゲート閉鎖時でも阿武隈川への強制排水を行えるようにしてはどうか。
答③強制排水施設の設置は、様々な可能性を想定し、どういった対策が有効かなど、広域的に対応していくため、角田市等との連携による協議を進めながら、小斎地区における内水被害対策の方向性を見出していく。

海川 正則 議員



QRコード
一般質問動画



いしひ 石井 議員



QRコード
一般質問動画

災害再調査後の対応は

町長 工事費用を一部補助する

問① 災害再調査報告書の結果に基づき、今後の具体的な取り組みを問う。

答① 再調査申請件数は、農地128件、農業用施設等141件であり、調査に着手している。

新たな取り組みとして、申請者が主体となって工事する場合、費用の一部を補助する。

問② 未給水家庭への生活水安定確保支援策の、抜本的見直しを求めるがどうか。

答② 令和5年度の水道未給水区域飲用水等確保対策補助金の活用状況は11世帯で、4年度より9件増えている。

問③ 森林整備再造林を含む、宝の山構想をどう進めるのか。

答③ 国や県とともに町も支援する森林総合整備振興事業により、再造林を推進する。令和5年度より町補助率を大幅に引き上げ、再造林面積の拡大につなげる。

問④ 酪農経営継続への支援強化対策を問う。

答④ 飼料の生産・販売を担う営農組織の育成策を検討する。また、乳用牛に肉用牛の受精卵移植を推進し、収入確保を下支えする支援策を検討する。

問⑤ 館矢間小学校南側町道改良と、国道に右折帯を設置してはどうか。

答⑤ 町道坪石沖東線は、道路整備計画に無いので改良は難しい。令和6年度の計画見直しにおいて、必要性

や緊急性を踏まえ検討する。

問⑥ 中学校部活動の地域移行への取り組みを問う。

答⑥ 教育長は教員の超過勤務解消等を目指し、学校部活動及び地域活動の在り

方に關するガイドラインを令和4年度に策定した。

県は6年度以降、準備が整った市町村から地域活動へ移行することとしており、町でも協議会を立ち上げ検討していく。



災害を乗り越え、5年ぶりに地域住民が集まりイチョウにしめ縄を飾りました(丸森中通地区)

子育て支援策の拡充を

町長 環境づくりに努める

子育て環境の充実に向けて、子育て世帯が抱える課題に対してより細やかな対応が必要である。この様な観点から町長に問う。

問① 多様な労働形態や家庭環境に対応するため、休日保育の拡大やファミリースポーツ制度の導入が必要だと考えるがどうか。

答① こども園の土曜保育を日曜祝日まで拡大することは、コストや人員の面で懸念がある。ファミリースポーツ制度は保護者等へのアンケート調査でニーズが少なく積極的な検討に至っていない。子育て支援活動



やまき まゆ 眞由 議員



QRコード
一般質問動画

に興味がある個人や団体がでてくることを期待しており、その際は可能な支援を行う。

問② WARRASKOクーパーの利用実績が対象世帯数の7%程であり、子育て家庭の現状にマッチしていないのではないかと。おむつ、おしりふき等の育児用品や保護者の身体的ケア等も利用可能にするなど、利用範囲拡充の可能性はあるのか。



令和5年度館矢間まちセンに設置されたおむつ替台

答② 利用した方のアンケートは好評であり、利用数も少しずつ増加している。町の独自事業として妊娠出産祝金も贈呈しており、育児用品の購入にも活用されている。クーパーの利用範囲拡充は現在考えていないが、子育て家庭がより利用し易くなるよう検討していく。

問③ 公共施設や観光交流施設、商業施設等へのベビーカー機能設置を進め、設備状況をマップに掲載する等の表示や情報発信が必要だと考えるがどうか。

答③ 令和4年度は役場庁舎にベビーカーアルムを設置した。5年度は丸森まちセンター階トイレへのベビーカープと、館矢間まちセンへのおむつ替台を設置したが、全施設への設置は難しい。

また、設置可能な施設については、子ども連れに配慮した設計や、情報発信にも引き続き取り組む。



わたなべ まさみ 議員
渡辺 政巳



QRコード
一般質問動画

公職選挙法の認識は

町長 他の法律を含めて遵守

保科町長が町議会議員だった時、町長職は3期までという考えであったと思うので、今の町長の考えを問う。

問① 自身が町長であった時は、クラインガルテンの設置やグリーンステージ上滝の分譲、公民館のまちづくりセンターへの移行、デマンドタクシーの導入、斎理屋敷前の駐車場整備、八雄館の開店などの施策を実施した。

保科町長は3期12年間、町民のためにどんな施策を行ってきたのか。また、4期目は町民のため

めに何をしたいと考えているのか。

答① 3期12年間「人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり」を将来像として、企業誘致や産業振興、若者定住対策、子育て支援、日本一、高齢者や支援が必要な人にやさしいまちづくりを重点戦略として、力を尽くしてきた。

特に3期目は東日本台風災害からの復旧・復興、被災者の暮らし再建に全力で取り組んだ。引き続き、4期目の任期中に成し遂げなければならぬ重要な使命だと捉えている。

4期目は子育て支援や給食費の無償化、学習塾を開設するなど「ときめく未来へ」の理念につながるよう

全力で取り組む。

問② 公職選挙法における告示後の選挙運動や、投票日の選挙運動に対して、どのような認識か。

答② 法律に対する町長としての認識については、公職選挙法に限らず、他の法律も含めてそれらを遵守する中で、町政を執行していくべきものと考えている。



地域住民の活動を支援している まちづくりセンター

除染仮置場をどうする

町長 一か所への集約を検討

上滝地区仮置場で進められていた、国による除染廃棄物掘り起こし分別埋立実証事業では、作業及び周辺環境等に放射線の影響はないとの報告がなされた。

また、報告会において、学校の敷地に埋設されている除染土の移設を求めたところ、町の要請があれば町内での移転は可能であるとの国の返答であった。

町長の考えを改めて問う。

問① 国は仮置場移転をどのような方針で進めようとしているのか。

答① 仮置場等の移転や集約は、特措法※で町が進める



民地借り上げはいつまで続く（金山地区仮置場）

問④ 小学校の特別教室や、避難所となっている体育館への早急なエアコン設置を求めるがどうか。

答④ 教育長特別教室の使用頻度は低く、学校からの要望もないので、設置順位は低い。体育館は面積が広く耐熱性等を慎重に検討する。

※平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法



あきのり 議員
山本 明德



QRコード
一般質問動画

こととされている。実証事業の結果を踏まえ、令和6年度以降に除去土壌の処分基準が示される予定である。

問② 本町はこれまで、国と東電の責任において町外への搬出を求めてきたが、その姿勢に変わりはないか。

また、校庭の除染土を早期に移転すべきではないか。

答② 現在の特措法では町外搬出は大変困難である。要望は継続しながら民有地や学校等の保管分も含めて、町長任期中に町内一か所への集約を検討している。

問③ 異常な物価高騰が町民生活を圧迫し、燃料代は福祉灯油を実施した2年前を超えている。低所得者への

灯油購入助成と全町民に商品券を配布して消費を下支えする考えはないか。

答③ 国の経済対策に基づき、非課税世帯への7万円追加給付や、事業者への支援を予算化した。

提案の内容については、更に追加の支援が必要と判断した際には直ぐに必要な対策を講じる。



いたばし 勇 議員
板橋



QRコード
一般質問動画

新たな国際交流の推進を

町長 姉妹都市交流協会で検討

平成2年5月にヘメット市との姉妹都市交流事業の調印が行われ、6年3月には中学生の親善訪問団派遣事業が始まったが、令和5年5月で中学生の交流事業は終了となった。
今後は、アジア等に新たな中学生の国際海外交流事業を推進すべきと考え、町長の考えを問う。

問①ヘメット市との国際交流事業の評価と、事業終了の理由はなにか。

答①本町からは19回で175名の中学生が訪問し、ヘメット市からは6回で37名が本町を訪れた。

問②「百聞は一見に如かず」というように、中学生の新たな国際海外研修制度を提言するがどうか。

答②議会からの提言も大事にしながら、姉妹都市交流協会の中で話し合っていく。

問③日本語学校開設の可否判断を問う。

答③大崎市と県は令和7年開設を目指し（仮称）大崎市立日本語学校」開設の覚書を締結し、県のモデル校と位置付けた。県が職員や学生の確保と財政支援を行い、大崎市が学校開設と運営を行うとの報道である。本町では、開設に向けて解消すべき課題が多いこと



平成31年3月に実施したヘメット市との交流

投票率向上策の検討を

町長 選挙に関心もたせる

令和5年11月執行された丸森町議会議員選挙の投票率は66・95%まで低下した。平成27年の同選挙との比較では6・22ポイント低下し、人口減少により投票者数も9058人から、7045人と2013人も減少している。
選挙の民意反映の理念からすれば多くの有権者の投票行動を期待したい。投票率向上に向けた町の取り組みについて質問する。

問①これまでの男女の投票率などの投票結果に加え、年代別投票結果も公表すべきと思うがどうか。



おおつき まさよし 議員
大槻 正儀



QRコード
一般質問動画

また、それらの結果を踏まえて投票率向上策を検討すべきでないか。

答①丸森町選挙管理委員会では、これまで啓発ポスターや標語の募集、リーフレットやチラシの配布など

一般質問 ■ 大槻 正儀議員



移動投票所 大切な一票を投じる機会を 福島県柳津町の例

を行い、投票を促してきた。また、町議選挙では選挙公報も発行し、選挙への関心を高める方策もとった。

投票結果の公表内容は、これまで以上の細分化が可能なので、選挙管理委員会

で検討してもらおう。

問②高齢者の増加や就労体系の変化により、期日前投票者の増加が顕著である。定まった投票日以外に投票できる期日前投票は有効なものとなっている。高齢者比率の高い本町では、移動期日前投票所の設置などが必要と思うが、3、4年後に実現するよう検討の考えはあるか。

答②町議選挙・県議選挙とも全投票者の4人にひとりが期日前投票をしている。期日前の移動投票所は、交通手段など投票者の便宜を図るためのもので、本町では主に高齢者の利用が想定される。

選挙事務には多くの人員と投票管理システムの構築を必要とするなど、検討事項が多く短期間での実現は困難なので、選挙への関心を高める研究が必要と考える。

から設置を見合わせる。

問④金山城址の石垣修復の進捗状況を問う。

答④令和5年11月までの調査完了を目指してきたが、現場調査が著しく困難であ

り、期間を6年3月まで延長した。

今後は、専門機関や宮城県教育委員会文化財課と協議を重ねながら修復方針等を慎重に検討する。

一般質問 ■ 板橋 勇議員

議会の要望に町長が回答しました

令和4年度決算審査を通じた議会要望への回答



イベント会場に活用され、たくさんの人が集まった旧耕野小学校



町の防災拠点や賑わいの場として活用される防ステ造成工事

収入未済額の縮減
 要望 町税、住宅使用料、病院医療費等の収入未済額を縮減するとともに、新たな未納者の抑制に努めること。
 回答 滞納者に対して催告書の送付や分納誓約の推進と法的手段による収納活動を強化する。住宅使用料や病院医療費等については、丸森町債権管理条例に基づき適正な債権管理を図る。

空き校舎の利活用
 要望 地区住民の意見もくみ取りながら空き校舎の利活用を進め、町の活性化につなげる。
 回答 専門的知見を有する地域力創造アドバイザーの支援により、各地区で地区住民による検討委員会が立ち上がり、検討が進んでいる。今後も支援を継続し、有効活用策を検討していく。

被災箇所再調査
 要望 災害復旧事業に計上されない被災箇所が多く存在する。早急に把握し全力で復旧に取り組むこと。
 回答 計上されなかった小災害の公共土木施設の工事は発注を進めている。農地等災害箇所は令和5年11月末まで申請を受け付け、現地調査を進めている。

防災力強化と産業振興
 要望 河川防災ステーションは、防災力強化に加え、町産業の振興につながるエリアとなるよう整備すること。
 回答 災害時の機能を備え、災害記憶の伝承と防災学習のほか、町内観光施設への周遊につながるゲートウェイ機能を発揮し、集客力の高い賑わいづくりの拠点となるよう整備する。

農林業の発展
 要望 町の基幹産業である農林業の発展に向け、関係ビジョンの施策を確実に進めること。
 回答 農林業者や関係機関等と連携して、各種施策を実施し、儲ける農業の推進や若者があこがれる農業の実現と、森林への関心を高め、宝の山にふさわしい森林づくりを進める。



空き家対策と移住に大きな期待「移住・定住サポートセンター」

職員研修と健康支援
 要望 職員のスキルアップを図るとともに健康面にも配慮して、町民福祉の向上に努めること。
 回答 階層別研修や専門研修、行政課題自主研修を実施し、スキルアップを図るとともに、健康診断、メンタルヘルス対策研修、ストレスチェック、相談体制の整備などに取り組むよう努める。

丸森病院経営の改善策
 要望 医師・看護師の充足を図り、町民の健康維持と経営改善につなげる。
 回答 県・大学病院等の協力を得ながら、引き続き医師の派遣により診療体制の確保、充実に努めていく。また、看護師等の勤務状況や職場環境の整備を進め、地域の良質な医療サービスの提供に努めていく。



町職員と民間企業の次世代リーダーが参加した官民共創次世代リーダー研修会

移住・定住推進の強化
 要望 人口減少対策である移住・定住推進は、移住・定住サポートセンターとの連携を強化して取り組むこと。
 回答 令和5年度より移住・定住サポートセンターに配置した移住コーディネーターや地域おこし協力隊と連携して事業を進め、情報共有を密にすることで移住・定住者の増加に努める。

町営学習塾の効果拡大
 要望 町営学習塾に対する町民の期待が大きい。多くの中学生の参加を促しながら効果の拡大につながる運営に努めること。
 回答 令和5年12月現在で56名が学習しており、学習意欲の向上が感じられる。6年度も入塾者を募集して、家庭学習の定着と学力向上を図る。



「丸森の自然を活かして」

金山地区

柿漬クラフト作家 佐藤 ゆり子さん

今回は、金山地区で柿漬工房を開いて製品作りに取り組んでいる「ゆり工房」佐藤さんにお話をうかがいました。

Q 柿漬をどのように利用するのですか。柿漬の良さや仕事について教えてください。

A 細長く折った新聞紙を編み込んで作った、バッグやベスト、手帳カバー等の日用品に柿漬液を塗り重ねることで、接着力や撥水性、耐久性が高まります。さらに、空気や日光に触れることで餡色に変化し、味わい深い色合いになります。

Q 柿漬の抽出工程を教えてください。

A 9月頃の緑色柿が柿漬成分であるタンニンの含有量が一番多く、おろし金でおろして汁を搾ります。2、3年甕に入れ発酵させ貯蔵します。

Q 柿は丸森の特産品です。製品に使うおうちと思っただきつけは何ですか。

A 柿漬には防菌・防水効果があります。女性が楽しめる日用品に活用できないものかと考え、16年前から試行錯誤を重ね、新聞紙やくるみ等の種子を使ったオリジナル作品を作ることができました。

Q 今後、どのような製品を作ってきたいですか。

A 種類の違う柿漬を混ぜ合わせることで、様々な色に変化します。また、柿漬の搾りかすを使った加工食品の開発にも挑戦したいです。

Q 議会への意見をうかがいます。

A 町は人口減少しています。人口に見合った議員定数にすべきではないでしょうか。

(山本 明德 副委員長)

広報委員長挨拶

まるもり議会だよりは、昭和30年12月に創刊され、県内では一番古く、全国でも長い歴史を持つ広報紙です。

これまで、町村議会広報全国コンクールで入選と奨励賞の栄誉を賜り高く評価されております。

議会広報常任委員会委員長の就任にあたり、引き継がれたものに新たな視点を取り入れ、町民に伝わる議会だよりを目指す所存であり、早速、今号2・3ページを作り替えたところです。委員一丸となり議会だよりをつくってまいりますので、宜しくお願い致します。



表紙のひとば

令和6年1月5日に筆甫地区のへそ大根づくりの場に伺いました。

最低気温が氷点下4度以下になるのを予測して茹でて干した大根は、凍って解けるを繰り返して約1か月でへそ大根になります。

暖冬の影響で干し始めるのが例年よりも2週間ほど遅くなりましたが、1月中旬頃までに約4000本の大根を干すとのことです。

伝統の味が末永く受け継がれることを願い、今年も煮もので美味しくいただきます。

(鈴木美智子 委員長)

議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明德
委員	金森 裕之
	大槻 孝雄
	中津川かおり
	八巻 眞由